

段級
行書

響

※筆をしっかりと立てて、
一つの文字を上から
見るように書く

新

立糸
新

響
響
響

響

穂先のハネ(弾力)
を、使って軽快に書こう

禽

今
禽
禽

王羲之(書聖と呼ばれている)
「蘭亭序」「集字聖教序」
「興福寺断碑」から字を集めて
倣書(背臨)で書いています。

新禽争うて響を啾す
春日、小鳥が争うて響ること。

(蕭瑱)

争

争